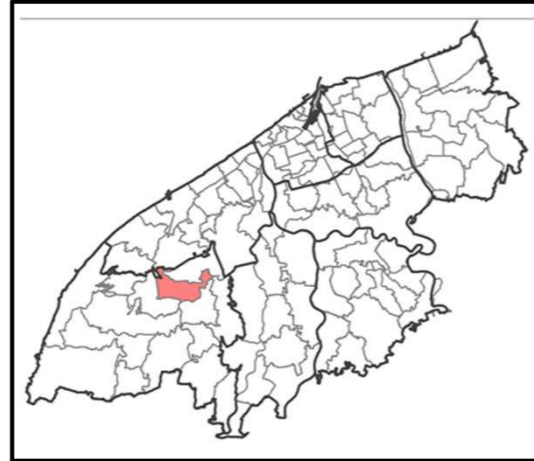


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

Table with 3 columns listing residential areas: 川崎, 桑山, 鮎(すずき), 善光寺, 善光寺村受, 曾根, 旗屋, 旗屋村受, 松崎.

●位置図

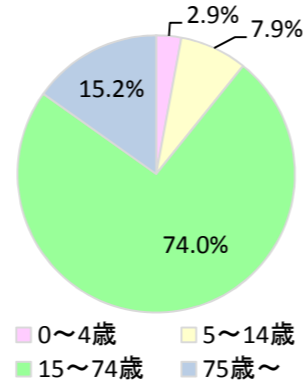


●施設・団体

Table listing facilities and organizations: 市役所・区役所等 (西川出張所), 警察・消防 (西川交番), 消防団 (西蒲方面隊), 水防倉庫 (西川), 一時避難場所 (鮎地区公園), 広域避難場所 (—), 主な用要施設配慮者 (幼稚園・保育園, 高齢者福祉施設, 障がい者福祉施設).

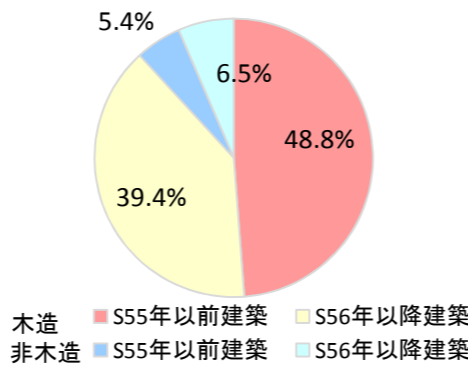
●人口

Table showing population statistics: 総人口 (6,369), 0~4歳 (186), 5~14歳 (500), 15~74歳 (4,716), 75歳~ (967), 65歳以上人口 (1,927), 世帯数 (2,223), 一世帯あたり人口 (2.9), 人口密度 (837/km²), 昼間人口 (6,658).



●建物関連指標

Table showing building statistics: 総棟数 (3,899), S55年以前建築 (1,902), S56年以降建築 (1,536), 非木造 (209), S55年以前建築 (252), S56年以降建築物 (1,788).



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

Table listing evacuation sites within the district: 曾根小学校, 西川学習館, 西川中学校, 西川健康センター, 西川竹園高等学校, 西川体育センター, いこいの家西川荘.

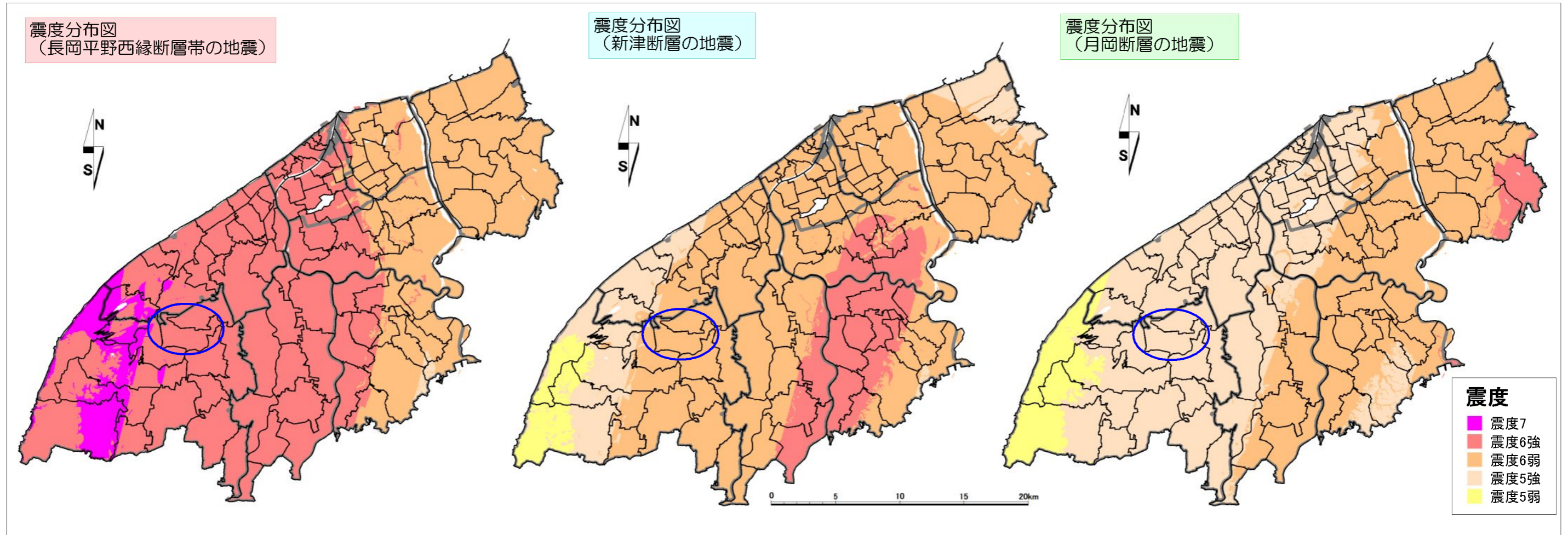
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

Table listing evacuation sites outside the district: 升潟小学校, 西川総合体育館.

避難の可否(災害ごとに表記): 開設する施設を「○」、避難可能な階数を「階数」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

Table evaluating disaster risks: 地震 (地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。), 津波 (津波の浸水は、新川沿いの低地で想定されている。), 水害 (信濃川下流の洪水、中ノ口川の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって、浸水の可能性がある。)



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

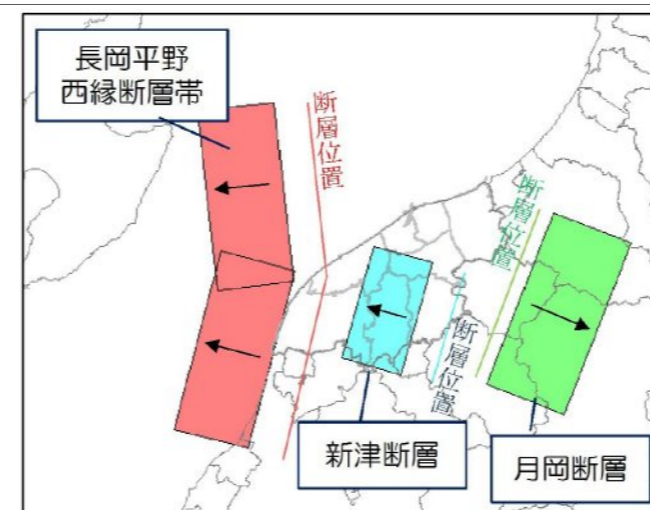
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

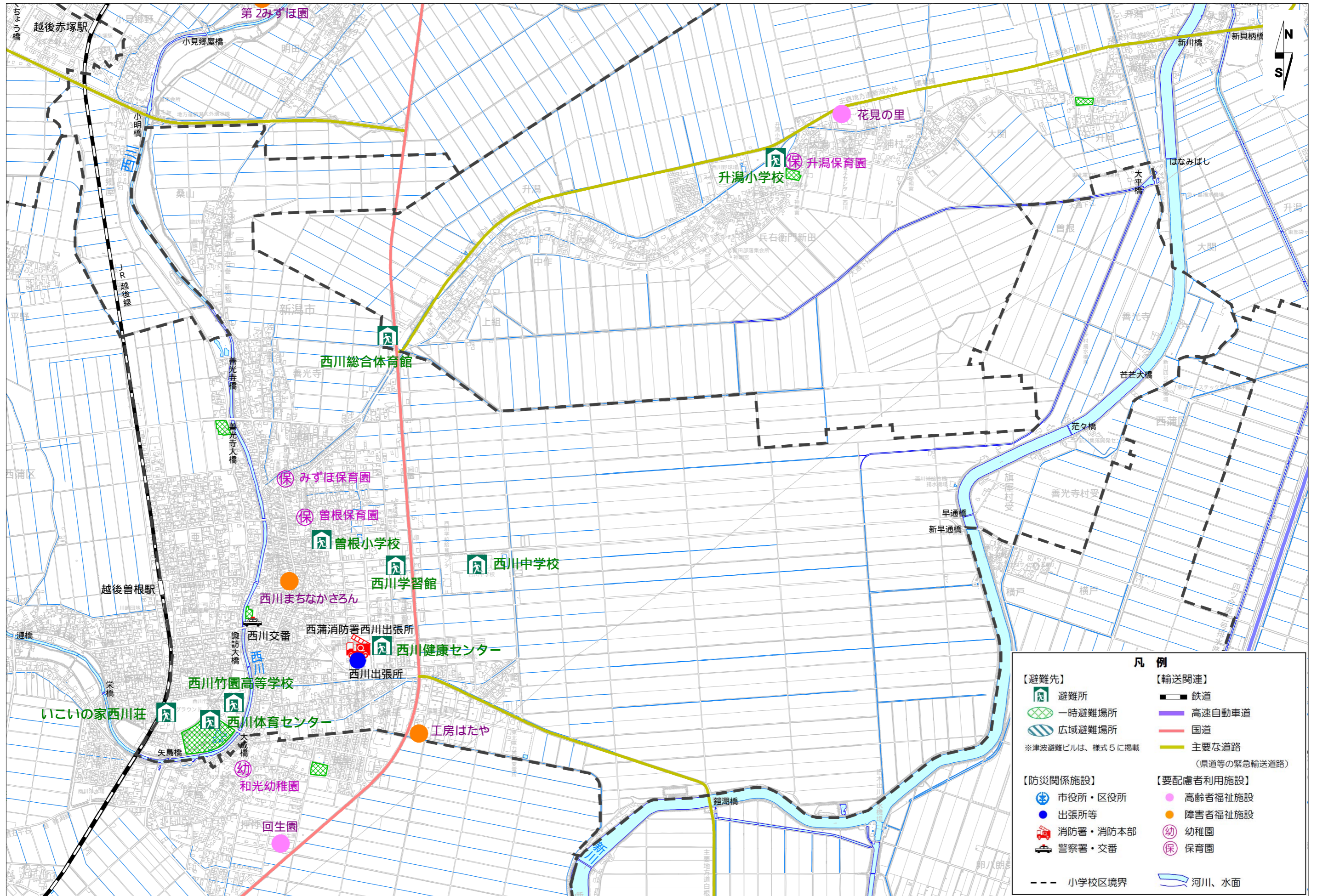
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

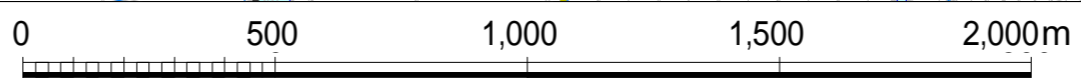
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



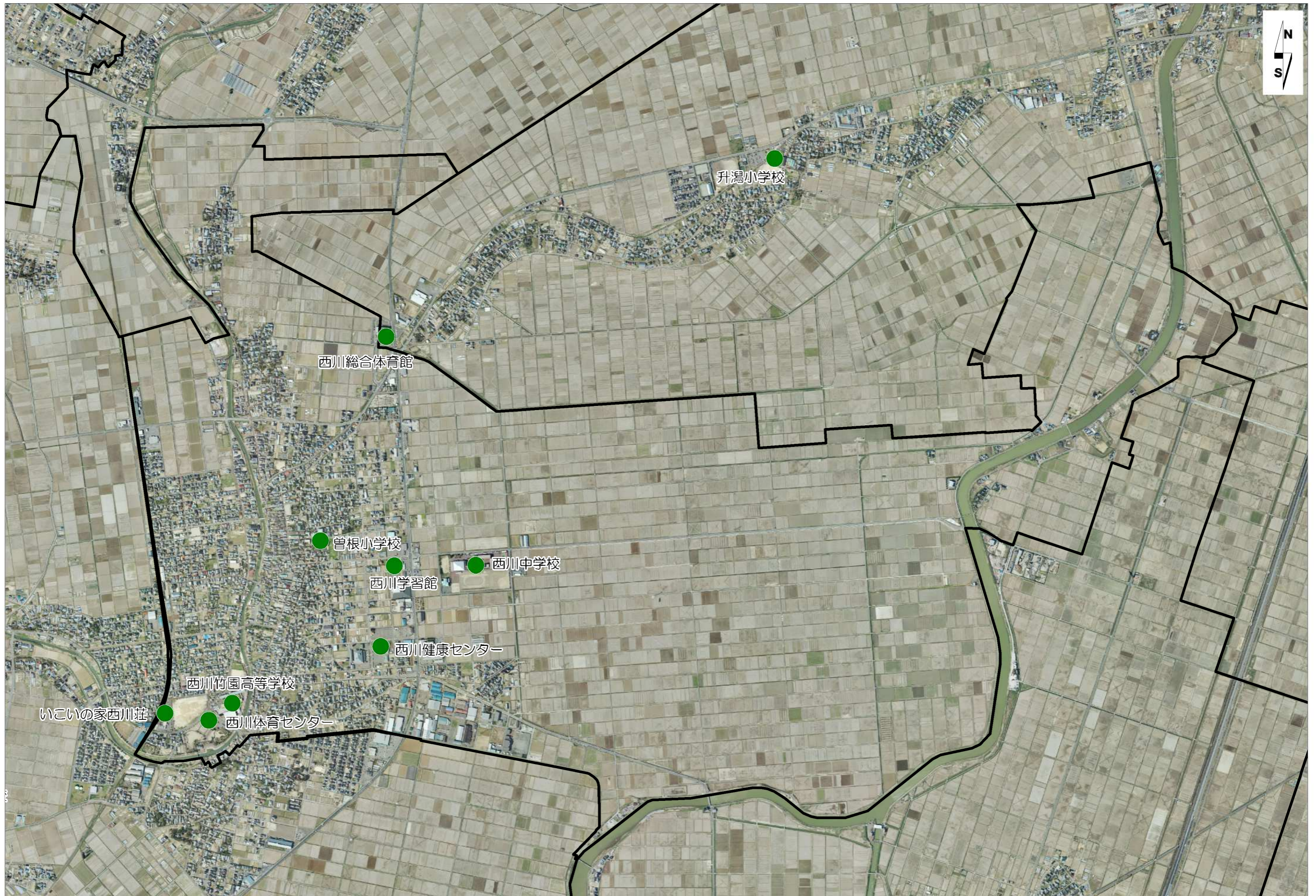
← は、断層の傾きを示しています。



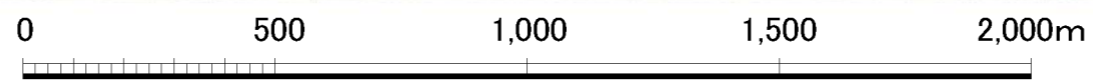
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)



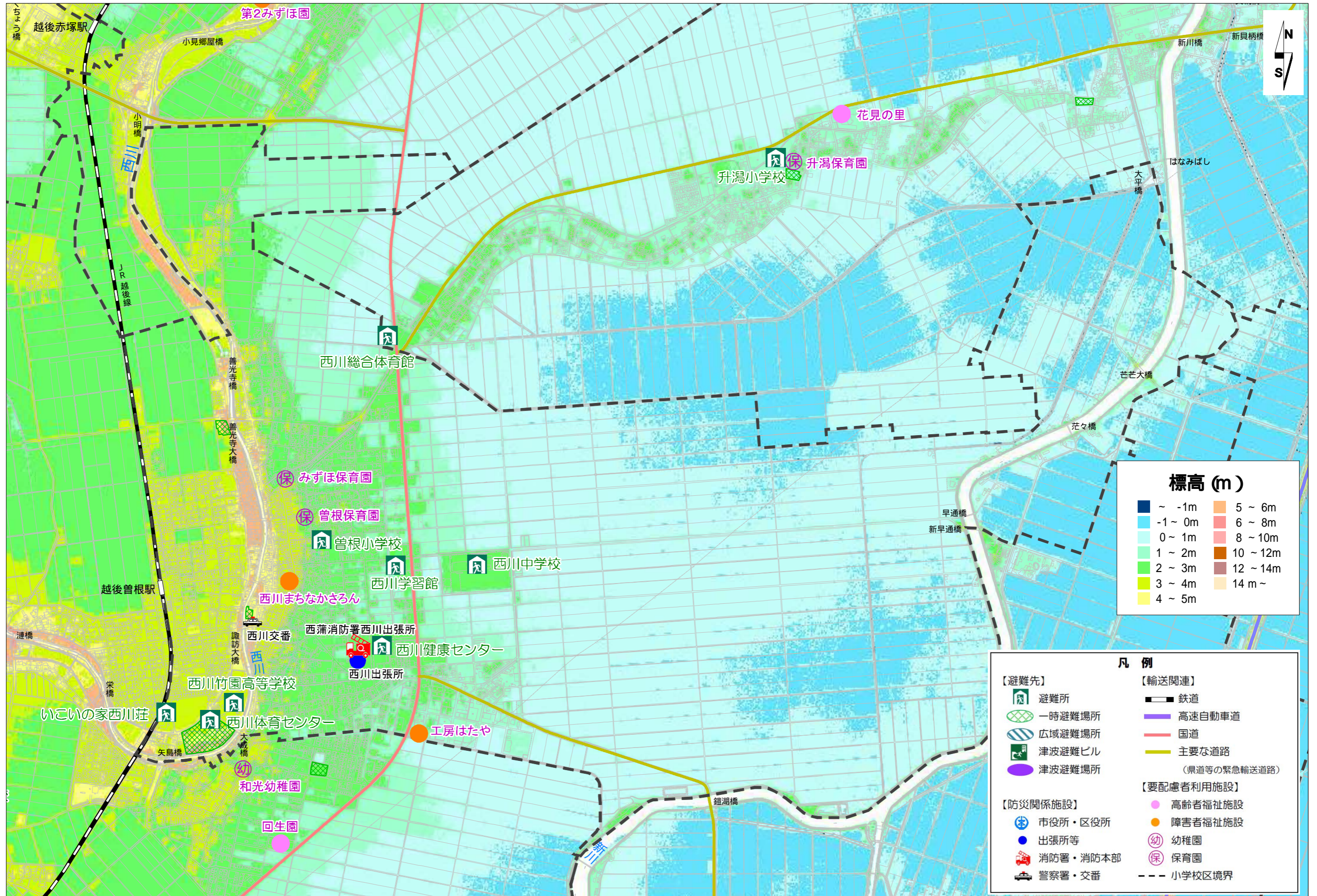
凡例	
<b>【避難先】</b>	<b>【輸送関連】</b>
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
<small>※津波避難ビルは、様式5に掲載</small>	主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)
<b>【防災関係施設】</b>	<b>【要配慮者利用施設】</b>
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
小学校区境界	河川、水面



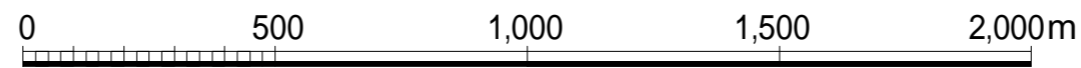
【出典】 航空写真(平成26年4月)



様式5 標高分布図

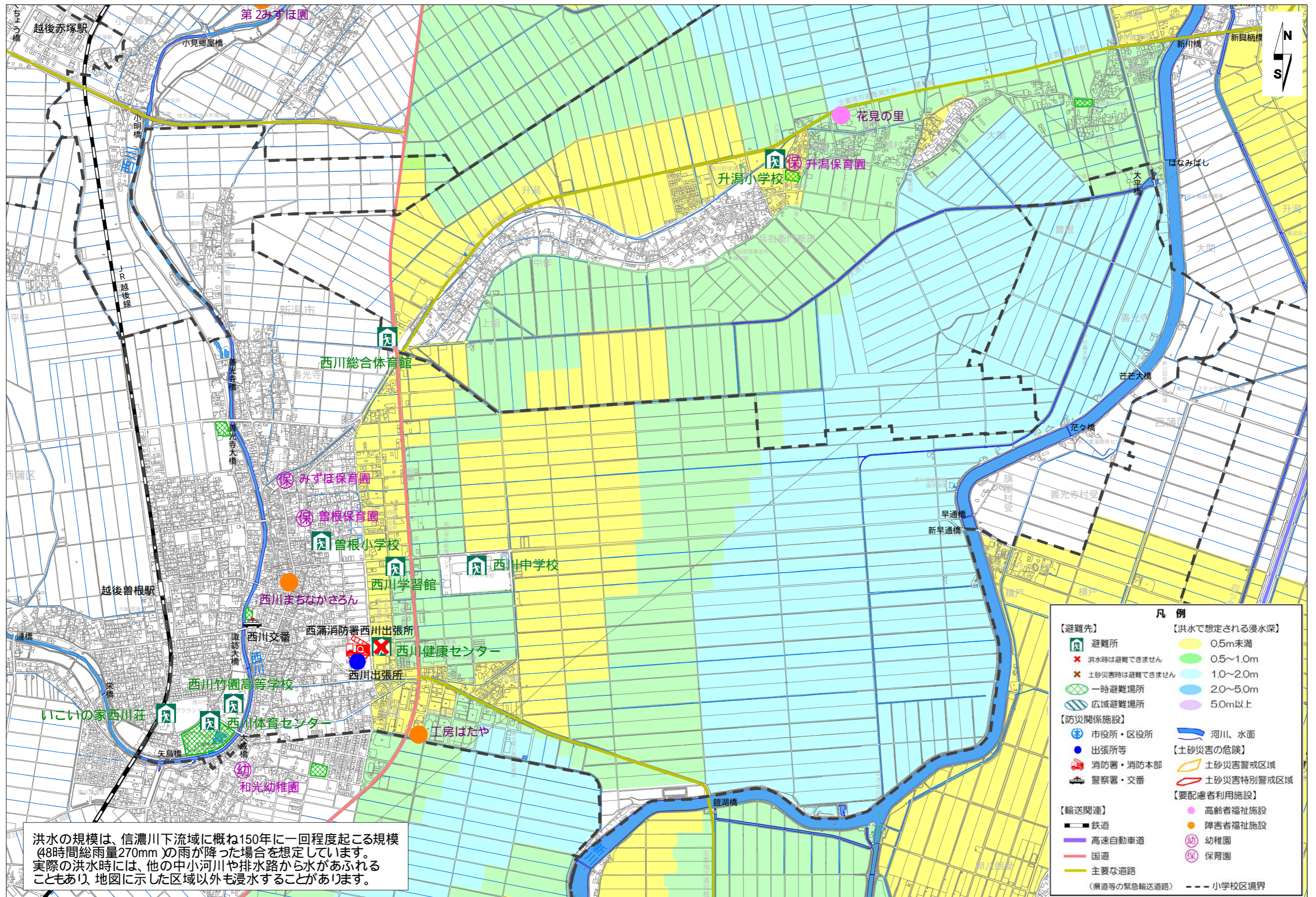


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

曽根小学校区

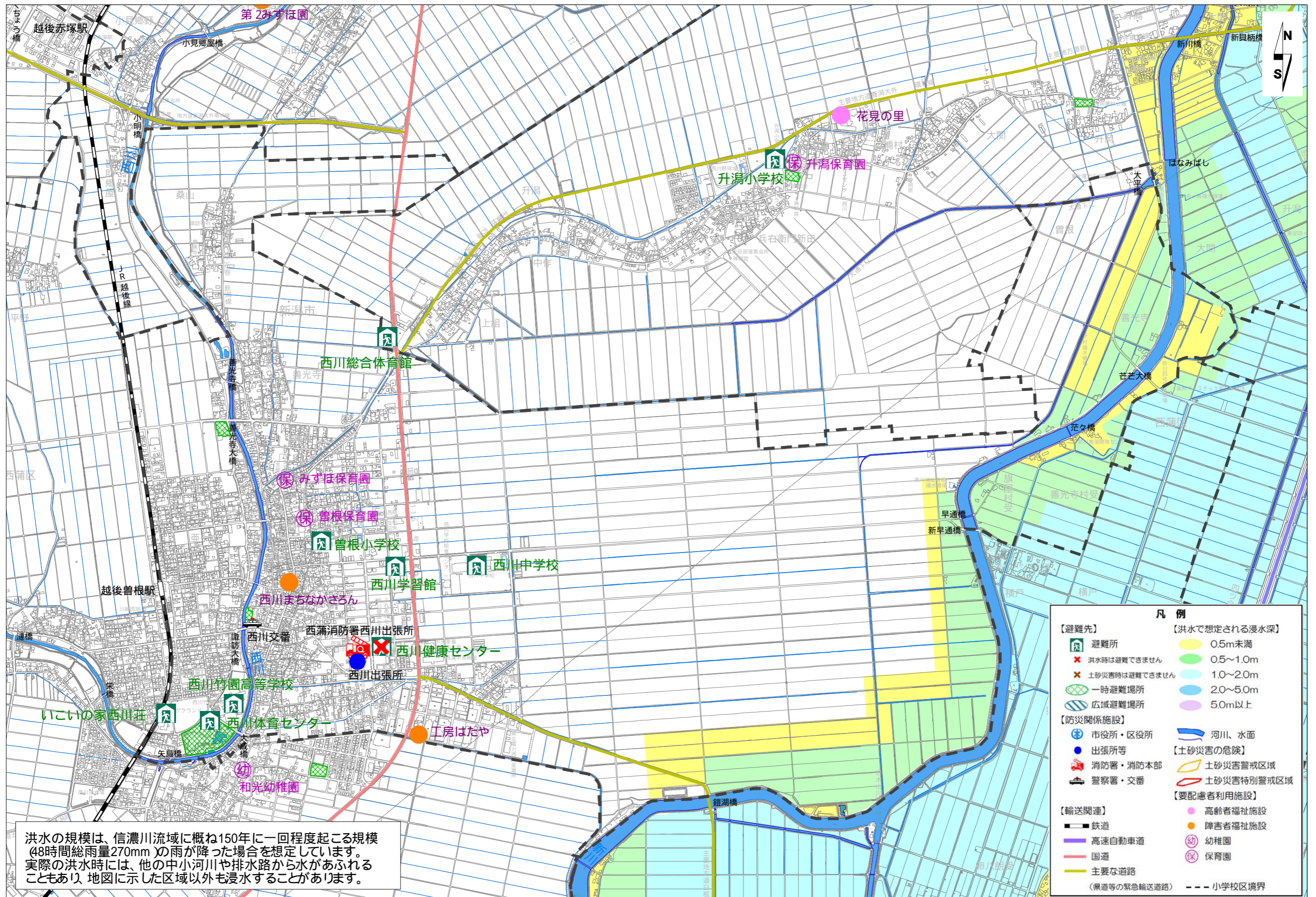


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

0 500 1,000 1,500 2,000m

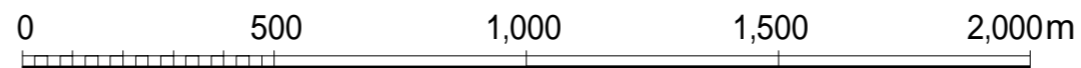
様式6-2 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(中ノ口川)

曽根小学校区



洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

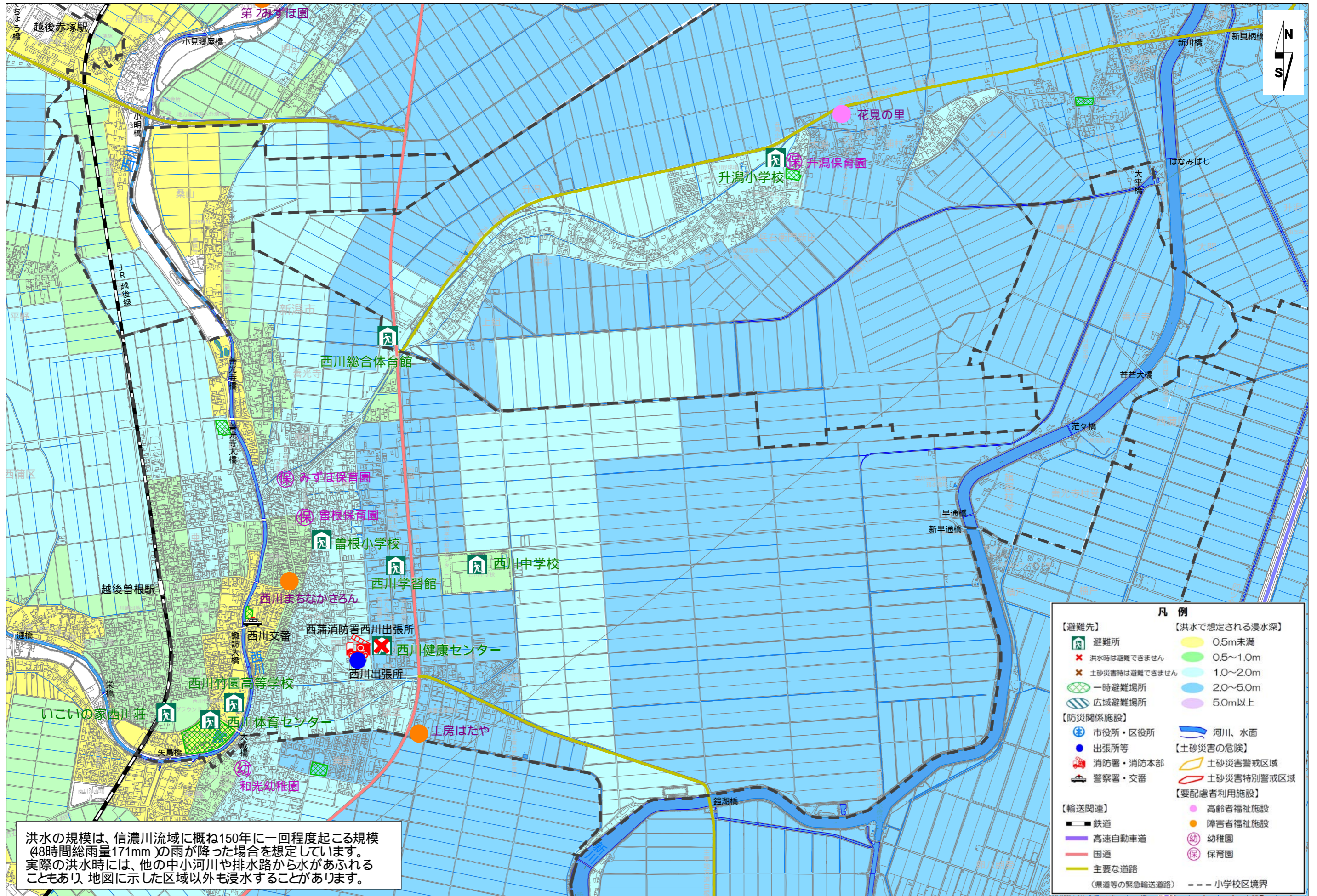
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
中ノ口川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月15日)



凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	河川、水面
市役所・区役所	【土砂災害の危険】
出張所等	土砂災害警戒区域
消防署・消防本部	土砂災害特別警戒区域
警察署・交番	【要配慮者利用施設】
【輸送関連】	高齢者福祉施設
鉄道	障害者福祉施設
高速自動車道	幼稚園
国道	保育園
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	
	--- 小学校区境界

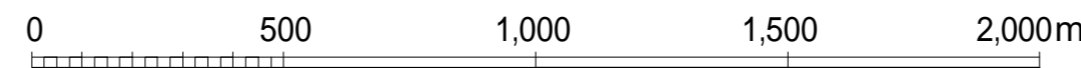
様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（大河津分水路）

曽根小学校区



洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量171mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

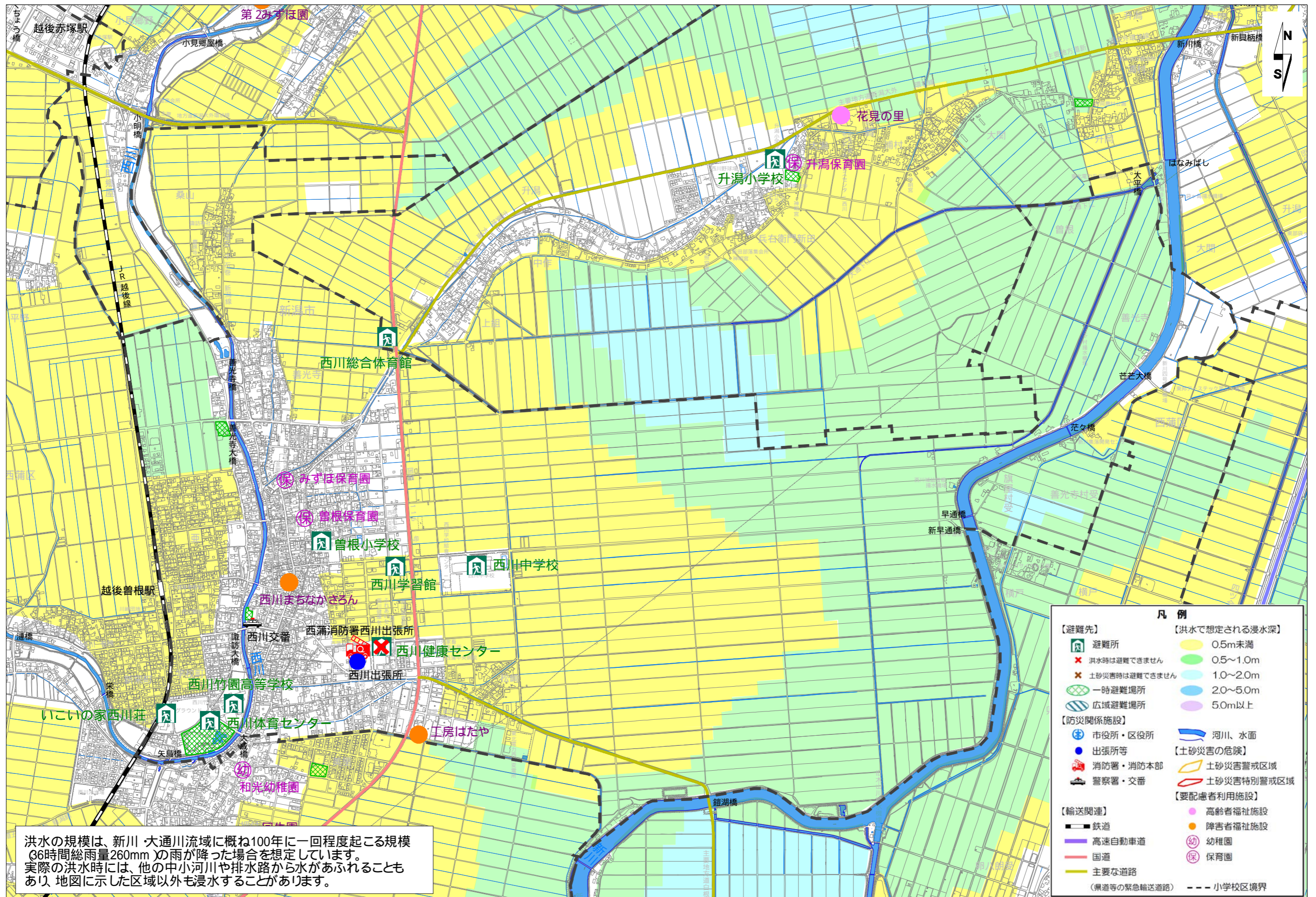
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)





様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路）

曽根小学校区



凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	河川、水面
市役所・区役所	【土砂災害の危険】
出張所等	土砂災害警戒区域
消防署・消防本部	土砂災害特別警戒区域
警察署・交番	【要配慮者利用施設】
【輸送関連】	高齢者福祉施設
鉄道	障害者福祉施設
高速自動車道	幼稚園
国道	保育園
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	
	--- 小学校区境界

洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模(36時間総雨量260mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域(新潟県,平成20年2月26日)

